

状況付与に対する発表機関からの発表内容一覧表

No.	状況付与内容
1	<p style="text-align: center;">◆発災直後◆</p> <p>午後6時00分 東京湾北部を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生し、習志野市役所の震度計で震度6弱を観測した。</p> <p>公共交通機関は、全ての路線で一時停止し、駅には多数の乗降客がいる。また、大型店、学校等の駅周辺施設にも多くの従業員等や利用客等がいる。</p> <p><その他の状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ○固定電話・携帯（電話・メール）が一部不通となる。 ○停電・断水が駅周辺の各地で発生している。 ○駅周辺施設では一部ガラスの破損等が発生している。
発表機関からの発言内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・駅の中の被害状況を確認する。（ガラスが割れ・建物の崩壊） ・本社と、互いの被害状況を報告し合い、情報を共有する。 ・列車がどこで停車しているのかを確認する。 ・社員の安否状況を確認する。 	①交通事業者
<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校には、各校だいたい数名程度居ることが想定される。 ・施設の安全確認をする。（インフラの状況等） ・児童や生徒の身の安全の確保をする。 ・児童や生徒の家族構成や住所を確認して安否確認をする。 ・どのようなスペース配分で避難者を体育館に受け入れるべきか検討する。 	③市指定避難所
<ul style="list-style-type: none"> ・お客様の安全確保のため、各店舗で指定している近隣の避難場所に誘導する。 ・従業員の安否確認をする。 ・施設の安全確認をし、安全と判断出来たら店舗の営業を再開する。 	④大型店
<ul style="list-style-type: none"> ・災害対策本部を設置する。 ・職員を参集し、近隣の被害情報の収集にあたる。 ・無線（MCA など）を用いて、他市とも連絡をとり、情報を共有する。 ・庁舎の安全確認を行う。 ・職員の参集状況の確認を行う。 	⑨千葉県・船橋市
会長（習志野市危機管理監）から動きの確認	
<ul style="list-style-type: none"> ・習志野市災害対策本部の動きを説明する。 ・震度6弱であれば自動的に災害対策本部が設置される。 ・職員に対して安否確認のメールを送信する。 ・一時滞在施設、避難所、地区対策支部の職員が自動的に配備場所に向かう。 ・消防本部は独自の体制で動き出してもらう ・商工会議所や商店会、大型店などへの連絡は、1時間以上はかかると考えている。 ・一部の小中学校（谷津津田沼・鷺沼・五中）では、1時間以内に向かえるかもしれない。 	

No.	状況付与内容
2	<p style="text-align: center;">◆発災 1 時間後◆</p> <p>午後 7 時 00 分 地震発生から 1 時間が経過し、公共交通機関が全て運行停止したことで、駅周辺に多くの方が滞留し始めている。また、大型店、学校等の駅周辺施設においても帰宅できない人が多数発生している。</p> <p>帰宅困難となった人が、駅周辺に多数発生したため、市は、千葉工大と文化ホールに一時滞在施設の開設を要請した。</p> <p><u><その他の状況></u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○駅周辺の避難所にも避難者が集まり始めている。 ○小・中学校には、帰れなくなった職員等が十数名いる。 ○千葉工大では、帰れなくなった学生が数百名いる。 ○文化ホールではコンサートが開催中で、数百名ほどの参加者やお客さんがいる。
発表機関からの発言内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・設備の点検をし、状況によっては運行の終日取りやめを決定する。 ・車内に取り残された乗客の安全を確保し、線路を歩かせる等して誘導する。 ・駅構内には大勢の人が滞留することが予想させるが、むやみやたらに移動させたり追い出すような誘導は控える。 ・被害状況に応じて社員を駅に参集させる。 	<p style="text-align: center;">発表機関</p> <p style="text-align: center;">①交通事業者</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・学生、お客さんの誘導は終わっていても、建物の確認は完了していないことが予想されるため、発災から 1 時間半くらいを目標に施設の安全確認を行う。 ・「受入れできる状況」と市に対して施設側からアクションを起こすべきか？ <p>市回答 ⇒可能な限り、市に連絡を入れてほしい。市からも要請の連絡はする。</p> <p style="text-align: center;"><u>できればより具体的に報告して欲しい。(何時から、何人くらいなど)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全がわかり次第、市からの要請は応じられるが、学生・客のスペースも必要なため、そこまで多くの数は受け入れられない。 ・千葉工大には 1000 名程は居る予想なので、500 名程度の受け入れとなる。 	<p style="text-align: center;">②一時滞在施設</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・市に被害状況等の情報提供を行う。 ・都内からは 2～3 時間ほどで習志野に徒歩でたどり着くので、習志野に向かう徒歩帰宅者が確認できたら、その情報を市に伝達する。 ・機動隊の要請も視野に入れる。 ・発災後、数時間は 110 番が殺到する可能性が高く、その間は交番の職員は動くことが出来ないため、現場に応援の職員を招集する。 	<p style="text-align: center;">⑤警察機関</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・各店舗の近くには人が多く滞留するため、情報（避難所・水の入手場所等）を書いたホワイトボードを店頭で設置して、帰宅困難者に情報を提供する。 ・買占めは抑制しながらも、コンビニや商店は極力閉めないで営業させる。 ・建物の安全の確認は素人目では厳しいが、危険性に応じて、可能な範囲で子どもやお年寄りなどの各施設への受入れも検討する。 	<p style="text-align: center;">⑦商工会議所 商店会</p>
会長（習志野市危機管理監）から動きの確認	
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には、各施設で帰宅困難者を移動させないことがポイントとなる。可能な限りその場で留めてもらい、周辺の情報を集めて欲しい。また、帰宅困難者へ情報を提供して欲しい。 ・どの機関も、発災後 2 時間～3 時間後がとても厳しい時間帯となるため、出来る限り連携を図って対応することが重要となる。 	

No.	状況付与内容	
3	<p style="text-align: center;">◆発災 3 時間後◆</p> <p>午後 9 時 00 分 地震発生から 3 時間が経過し、本日中の公共交通機関の運行再開は無いことが決まった。</p> <p>首都圏各地で、揺れや液状化の発生により建物の倒壊や、一部では火災が発生しているという被害情報が、テレビやラジオ、インターネット等で続々と流れている。</p> <p>市からの要請を受けた千葉工大と文化ホールは、一時滞在施設を開設した。</p> <p><u><その他の状況></u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○駅周辺の各施設（建物）には大きな被害はない。 ○駅周辺にある全ての避難所が開設され、地域住民が避難を開始している。 ○駅周辺道路では渋滞が発生している。 	
発表機関からの発言内容		発表機関
<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルに従って一時滞在施設として開設をする。 ・受け入れに際して、名簿も作成する。 ・どれほどの数を受け入れるべきなのか、検討を行う。 ・飲食物等の備蓄品を、一時滞在者へも提供を始める。 		②一時滞在施設
<ul style="list-style-type: none"> ・谷津地域だけでも 6,700 人の避難者の想定がある。よって、避難者のトリアージを行う必要も生じてくる。 ・受け入れきれない避難者については、テントを立て、校庭へ案内するなど検討。 ・誰が避難をしているのかの確認をする。（地域住民か帰宅困難者か） ・夏休み期間なので食料は提供できず、飲料水も高架水槽に溜まっている分のみ提供可能。トイレに関してはプールの水を排水に利用することになる。 ・いずれにしても、学校には避難所としてのキャパがあることを理解してもらいたい。 		③市指定避難所
<ul style="list-style-type: none"> ・火災と家屋の倒壊が多数生じていることが予測され、その対応に追われている。 ・市と情報の共有を積極的に行い、119 番通報や各消防署に直接やってくる人には、一時滞在施設や避難所の場所等の情報を提供する。 ・その他は基本的に現場の救助活動等を行う。 		⑥消防機関
<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織、自治会が地区の中心となって地域住民をまとめる。 ・避難所に避難をし始めるので、受け入れや名簿作り等を市と協力して行う。 ・地元住民と帰宅困難者のすみ分けを行いながら、どの様に避難所に帰宅困難者を受入れるべきなのか、検討する。 ・他の地域住民を励ます役割を担っていく。 		⑧地域住民
会長（習志野市危機管理監）から動きの確認		
<ul style="list-style-type: none"> ・一時滞在施設は、基本的に 1 日間の受入れをお願いしたい。朝方の発災であれば津田沼の立地条件からして、ほとんどが帰宅を判断する人が多いと考えている。夕方の発災は一晩の受入れの可能性は高い。 ・どこの避難所もキャパは超えているは理解している。情報を出来るだけ提供して避難者を減らす取り組みはやっていく。やむを得ない場合は、その時の状況で臨機に対応してもらえない。 ・今回の訓練では、各機関の限界や気持ちを知ることが出来た。 ・各機関が自分達のことだけ考えるのではなく、『連携』することが重要だと改めて感じた。 ・訓練で活用したマニュアルが機能することが確認できた。 		